

がれきの行方

静岡・島田の選択

<下>

る。同県の担当者は島田市を例に「試験焼却は住民の安心につながる。良いお手本になる」と話す。

同県など広域処理に前向

静岡県島田市以外にも震災がれき受け入れの動きは広がるのか。

「議会や自治会長の皆さんの賛同も得た。市民の判断に感謝したい」。細野豪志環境相は15日、市民の理解を得る努力を重ねた上で島田市の受け入れ表明を「がれきの広域処理にとって大きな一歩」と強調した。

これまでに受け入れ実績があるのは青森と山形、東京の3都県だけ。一方で岩手、宮城両県のがれきのうち処分できたのは6・8%（12日現在）。広域処理を軌道に乗せるには、関東以西での処理の拡大が欠かせない。

鍵になるのは住民の理解だが、東京都での受け入れは、抗議に動じない石原慎太郎知事が主導し、受け入れ先も住民のいない埋め立て地という「特殊事例」だった。

政府は、首長がリーダーシップを発揮し、情報公開により住民の理解を取り付けた島田市の取り組みを「理想的な事例」（環境省幹部）と捉え、これを突破口に広域処理に弾みをつける。

一方、被災自治体は自力でがれきを処理する努力も続けているが、16日には野田佳彦首相名の文書を被災地以外の自治体に送り、重ねて協力を呼び掛けた。

3都県以外にも受け入れに向けた動きはある。埼玉では民間のセメント工場が2年間で4万2千トンを燃

焼しと沿岸市町村で最も多い

環境省によると、岩手、宮城両県では25基の仮設焼却炉の建設が予定されている。既に岩手で2基、宮城で3基が稼働中で、夏までにはすべて動き出す。

がれき推計量が616万トンの宮城県石巻市は、石巻港の埠頭に5基の焼却炉を造り、再利用できるものとして、再利用できないものに分ける施設も併せて整備し、がれき処理の拠点にする計画だ。

宮城県石巻市は、石巻港の埠頭に5基の焼却炉を造り、再利用できないものに分ける施設も併せて整備し、がれき処理の拠点にする計画だ。

宮城県石巻市は、石巻港の埠頭に5基の焼却炉を造り、再利用できないものに分ける施設も併せて整備し、がれき処理の拠点にする計画だ。

宮城県石巻市は、石巻港の埠頭に5基の焼却炉を造り、再利用できないものに分ける施設も併せて整備し、がれき処理の拠点にする計画だ。

宮城県石巻市は、石巻港の埠頭に5基の焼却炉を造り、再利用できないものに分ける施設も併せて整備し、がれき処理の拠点にする計画だ。

宮城県石巻市は、石巻港の埠頭に5基の焼却炉を造り、再利用できないものに分ける施設も併せて整備し、がれき処理の拠点にする計画だ。

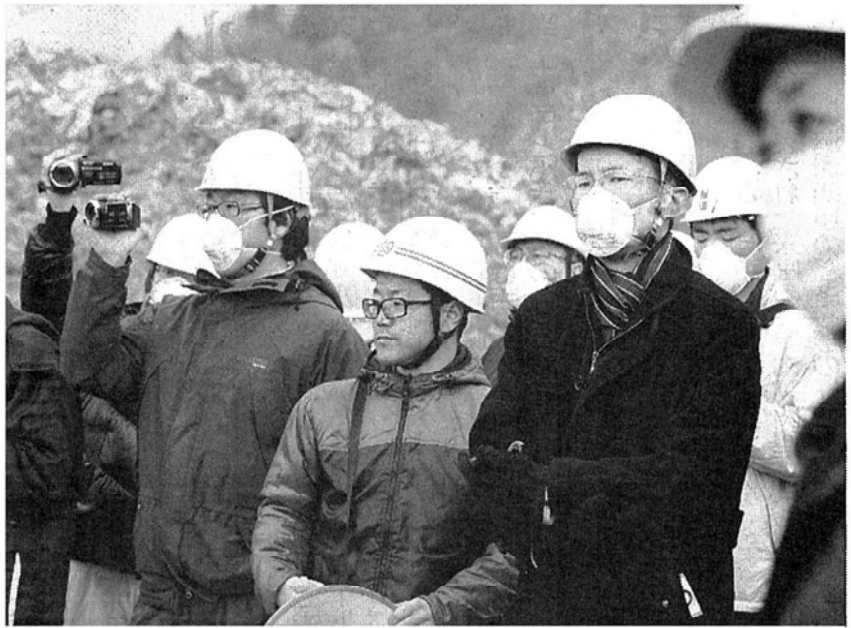
宮城県石巻市は、石巻港の埠頭に5基の焼却炉を造り、再利用できないものに分ける施設も併せて整備し、がれき処理の拠点にする計画だ。

全国展開へ「大きな一歩」

政府、他地域の協力を期待

宮城県石巻市は、石巻港の埠頭に5基の焼却炉を造り、再利用できないものに分ける施設も併せて整備し、がれき処理の拠点にする計画だ。

だが5基がフル回転しても処理能力は1日1500トにとどまり、国が目標とする2014年3月末までの処理完了は難しい。市は「地元でも焼却や再利用に努めるが、3本目の柱として広域処理がどうしても必要」（廃棄物対策課）と他地域の協力を訴える。



宮城県女川町のがれき処理施設を視察する全国の自治体担当者ら115日